

第137期末(2026年1月13日)	
基準価額	10,783円
純資産総額	22,756百万円
第132期～第137期	
騰落率	15.7%
分配金(税込み)合計	300円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

ピクテ・グローバル・インカム 株式ファンド(毎月分配型) フレックス・コース 愛称:グロイン・フレックス

追加型投信/内外/株式

第132期(決算日2025年8月12日) 第135期(決算日2025年11月10日)
第133期(決算日2025年9月10日) 第136期(決算日2025年12月10日)
第134期(決算日2025年10月10日) 第137期(決算日2026年1月13日)

作成対象期間: 2025年7月11日～2026年1月13日

受益者のみなさまへ

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記の弊社ホームページを開き「ファンド」より当ファンドの名称を選択いただき、さらに「運用報告書(全体版)」を選択いただきますと運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 書面での運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)フレックス・コース」は、このたび、第137期の決算を行いました。当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主に高配当利回りの世界の公益株に投資し、安定的かつより優れた分配金原資の獲得と信託財産の成長を図ることを目的としております。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

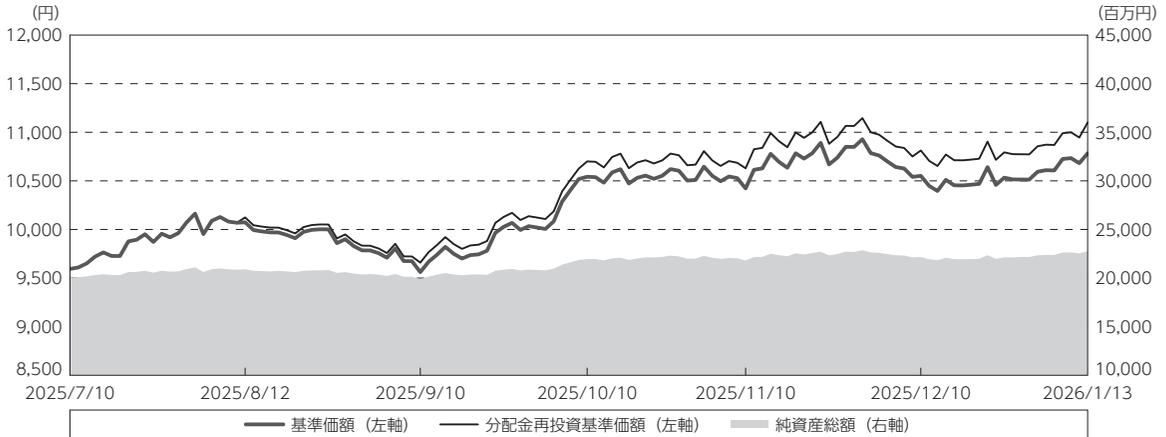
電話番号 03-3212-1805

受付時間: 委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ: www.pictet.co.jp

運用経過

基準価額等の推移



第132期首：9,594円

第137期末：10,783円 (既払分配金(税込み)：300円)

騰落率：15.7% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2025年7月10日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

基準価額の主な変動要因

- 上昇↑・実質的に組入れている公益関連株式の価格が上昇したこと
- 上昇↑・円に対して米ドルなどが上昇したこと
- 上昇↑・実質的に組入れている株式からの配当収入

1 万口当たりの費用明細

(2025年7月11日～2026年1月13日)

項 目	第132期～第137期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	64	0.620	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(22)	(0.214)	・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
(販 売 会 社)	(41)	(0.394)	・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.011)	・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.004	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.003)	・その他は、目論見書、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用
合 計	64	0.624	
作成期間の平均基準価額は、10,331円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

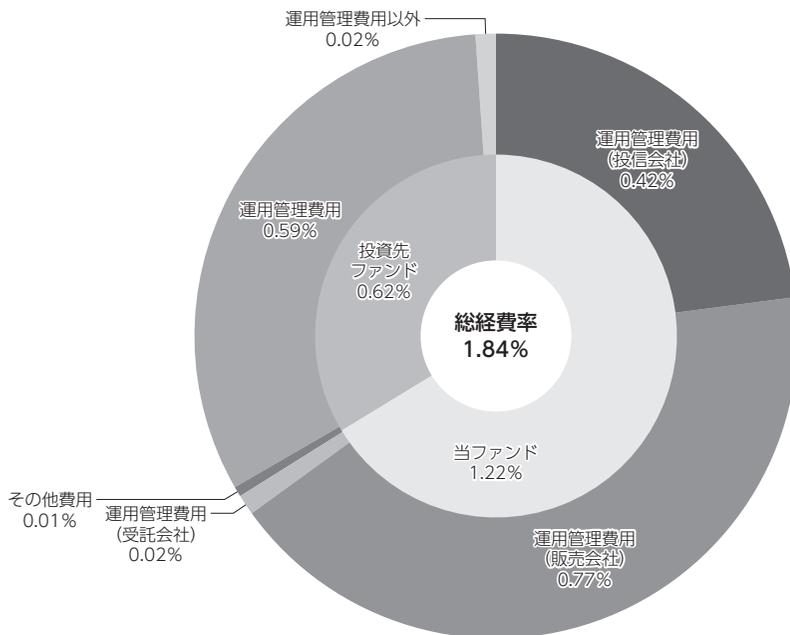
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.84%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.84
①当ファンドの費用の比率	1.22
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.59
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.02

(注) ①の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券です。

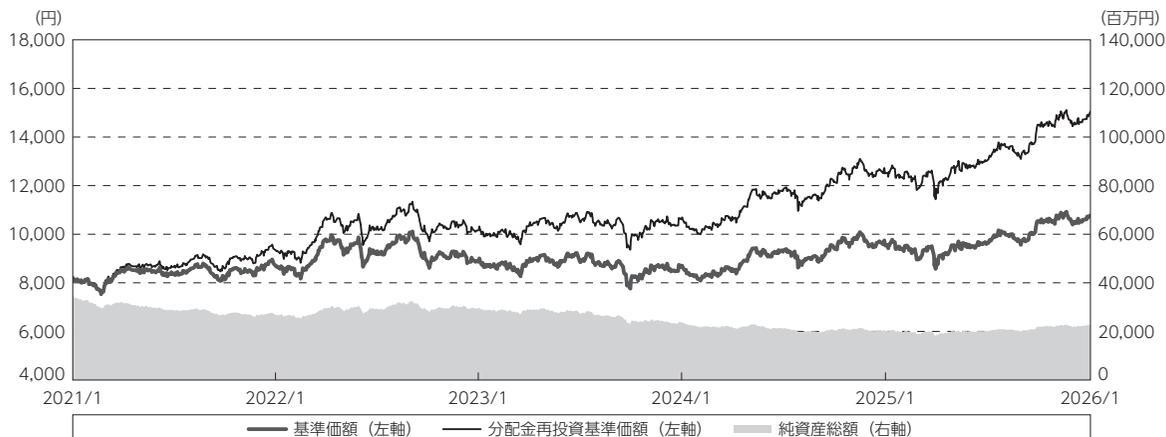
(注) ①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) ③その他費用の比率が入手できない投資信託証券の場合、②運用管理費用の比率に総経費率を集計しています。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移 (2021年1月12日～2026年1月13日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2021年1月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2021年1月12日 決算日	2022年1月11日 決算日	2023年1月10日 決算日	2024年1月10日 決算日	2025年1月10日 決算日	2026年1月13日 決算日
基準価額 (円)	8,209	8,702	8,866	8,644	9,530	10,783
期間分配金合計(税込み) (円)	-	600	600	600	600	600
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	13.9	8.7	4.5	17.8	20.3
純資産総額 (百万円)	34,537	26,904	29,380	23,662	20,111	22,756

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

投資環境

- ・世界の株式市場は、作成期初の2025年7月は、前月からの上昇傾向が継続しましたが、米国の関税政策による貿易摩擦や米国の財政悪化や雇用統計などへの懸念、ウクライナや中東情勢の緊迫化などから軟調な場面もありました。7月後半からは、米国の関税政策を巡り日本や欧州連合（EU）と合意に至ったこと、中国との交渉も進展期待が高まったこと、堅調な米国景気や企業業績、欧州中央銀行（ECB）や米連邦準備制度理事会（FRB）の利下げ観測などから上昇が続きしました。8月後半以降は、ECBが政策金利を据え置いたことや欧州諸国の財政悪化への懸念が高まって、長期金利が上昇したことなどから9月中旬ごろまで軟調に推移しました。その後は、FRBの追加利下げ決定や堅調な景気動向、防衛関連分野企業の株価上昇などを背景に上昇しました。米国議会での予算不成立による政府機関の閉鎖や、米国の雇用減速などが上値を抑える動きもあったものの、根強いFRBの追加利下げ観測やハイテク企業を中心とした良好な企業業績を背景に上昇しました。10月に米中間の貿易摩擦への警戒感や一部の米国地銀の信用不安など、11月には、FRBの利下げ観測の後退や米国景気の減速懸念、英国の財政不安などを受けて下落する場面がありましたが、上昇傾向は継続しました。その後も、FRBの利下げ観測が強まったこと、欧米を含め世界的に景気が堅調であること、AI（人工知能）関連の大型投資の発表、米国政府機関の閉鎖が解除されたことなどから上昇しました。作成期末にかけては、FRBの利下げ決定と更なる追加利下げ観測、景気の先行きへの楽観的な見通し、ECBのユーロ圏経済成長見通しの上方修正などを背景に上昇が続きしました。
- ・為替市場では、作成期初の2025年7月は、中東情勢の緊迫化や米国株式市場の最高値更新などから円安・米ドル高傾向となり、米雇用統計が良好でFRBの追加利下げ期待が後退したこと、日本の参議院選挙での与党自民党の敗北や、日本銀行の利上げ姿勢の後退などを背景に円安・米ドル高で推移しました。8月から9月にかけては、FRBの利下げ観測や独立性への懸念、米国議会での政府予算案審議難航から米国政府機関閉鎖の可能性、日本銀行の利上げ観測を受けた円高・米ドル安の動きの一方で、積極財政派の高市氏の自民党総裁選への出馬表明で円安の動きもあり、横ばいで推移しました。10月以降は、米国議会での予算不成立で政府機関が閉鎖されたことや債務増大への懸念などから米ドルの上値が一旦抑えられましたが、自民党総裁選での高市氏の勝利、日本の財政拡張政策や政局の不透明感への懸念、FRBの早期の追加利下げや日本銀行の追加利上げの観測の後退などから円安・米ドル高が進行しました。米国政府機関の閉鎖が解除されたこと、日本の財政政策の拡大に伴う財政悪化への警戒感なども要因となり11月中旬にかけて円安・米ドル高が継続しました。その後は、日本銀行の円安是正を意図した為替介入への警戒感や、FRBの利下げ観測の高まりなどから円高・米ドル安の動きとなる一方で、日本の財政悪化懸念や日本銀行が利上げを決定したものの、利上げペースや金利の到達点が不透明であったことなどから円安・米ドル高の動きもあって年末までもみ合う推移となりました。作成期末にかけては、高市首相が衆院解散を意図しているとの報道から、選挙によって政権与党が議席数を増やし財政拡大政策を進めることで日本の財政が悪化するとの連想から円安・米ドル高が進行しました。

当該投資信託のポートフォリオ

投資信託証券への投資を通じて、主に高配当利回りの世界の公益株に投資し、安定的かつより優れた分配金原資の獲得と信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ってまいりました。

投資先ファンド	組入比率		当作成期騰落率
	前作成期末	当作成期末	
PGSF－グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド	89.4%	95.0%	+16.9%
PGSF－グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド	9.8%	4.2%	+6.3%
ピクテ・ショートターム・マネー・マーケット JPY	0.0%	0.0%	+0.2%

(注)“PGSF”は「ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド」の略称です(以下同じ)。騰落率は分配金を再投資したものととして計算しております。

トランプ米政権の政策不透明感は根強く意識されます。一方で各国の金融政策は緩和方向に修正され始めたことや公益株の持つディフェンシブ性などを考慮し、株式の組入を高位に保ちました。外貨についてはやや抑制的な組入比率を維持しました。

投資先ファンドの組入状況

＜PGSF－グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド＞
【当作成期末組入比率：95.0%】

主に高配当利回りの世界の公益株に投資してまいりました。

◇組入上位10ヵ国・地域 【当作成期末】

国・地域名	組入比率
米国	66.9%
英国	8.2%
フランス	5.1%
スペイン	4.2%
イタリア	4.2%
ドイツ	3.9%
ブラジル	2.2%
アラブ首長国連邦	1.7%
デンマーク	1.2%
日本	0.6%

◇組入上位5業種 【当作成期末】

業種名	組入比率
電力	41.3%
総合公益事業	30.2%
独立系発電・エネルギー販売	7.3%
石油・ガス・消耗燃料	4.6%
水道	4.5%

◇組入上位10銘柄

【当作成期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
エンジー	フランス	総合公益事業	4.7%
センプラ	米国	総合公益事業	4.6%
サザン	米国	電力	4.5%
SSE	英国	電力	4.4%
イタリア電力公社	イタリア	電力	4.2%
センターポイント・エナジー	米国	総合公益事業	3.9%
エクセル・エナジー	米国	電力	3.8%
イベルドローラ	スペイン	電力	3.6%
ネクステラ・エナジー	米国	電力	3.5%
PG&E	米国	電力	3.4%

(注) 組入比率は当該投資先ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

<PGSFーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド>

【当作成期末組入比率：4.2%】

主に高配当利回りの世界の公益株に投資してまいりました。外貨建て資産については為替ヘッジを行いました。

◇組入上位10カ国・地域

【当作成期末】

国・地域名	組入比率
米国	65.5%
英国	8.7%
フランス	5.3%
イタリア	4.3%
スペイン	4.2%
ドイツ	3.9%
アラブ首長国連邦	3.0%
ブラジル	2.2%
デンマーク	1.3%
日本	0.7%

◇組入上位5業種

【当作成期末】

業種名	組入比率
電力	41.6%
総合公益事業	29.4%
独立系発電・エネルギー販売	7.6%
石油・ガス・消耗燃料	5.1%
水道	4.8%

◇組入上位10銘柄

【当作成期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
エンジー	フランス	総合公益事業	4.8%
SSE	英国	電力	4.7%
サザン	米国	電力	4.5%
センプラ	米国	総合公益事業	4.5%
イタリア電力公社	イタリア	電力	4.3%
センターポイント・エナジー	米国	総合公益事業	3.9%
エクセル・エナジー	米国	電力	3.8%
イベルドローラ	スペイン	電力	3.5%
ネクステラ・エナジー	米国	電力	3.4%
PG&E	米国	電力	3.3%

(注) 組入比率は当該投資先ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

<ピクテ・ショートターム・マネー・マーケット JPY >

【当作成期末組入比率：0.0%】

短期金融商品等に投資を行い円建てでの高水準の元本の安定性と短期金融市場金利の確保を目指し運用を行ってまいりました。

当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

分配金

当作成期中の1万口当たり分配金(税込み)は以下のとおりといたしました。

なお、留保益については、元本部分と同一の運用を行います。

◆分配金および分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第132期	第133期	第134期	第135期	第136期	第137期
	2025年7月11日～ 2025年8月12日	2025年8月13日～ 2025年9月10日	2025年9月11日～ 2025年10月10日	2025年10月11日～ 2025年11月10日	2025年11月11日～ 2025年12月10日	2025年12月11日～ 2026年1月13日
当期分配金	50	50	50	50	50	50
(対基準価額比率)	0.494%	0.520%	0.472%	0.477%	0.472%	0.462%
当期の収益	50	50	50	50	50	50
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	8,027	8,061	8,104	8,137	8,176	8,216

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注) この様式で示される「当期の収益」は、当ファンドが投資する投資先ファンドからの分配金を受取った場合、実質的に「当期の収益以外」の原資が含まれて表示されることがあります。

今後の運用方針

(1) 投資環境

主要中央銀行の利下げサイクルには終焉の兆しが見られるほか、AI関連投資の収益性への疑念なども意識され、市場のボラティリティは上昇することが警戒されています。しかし、当面の間はFRBのバランスシート政策などを通じた流動性供給が市場の下支えとなることが期待されるため、現状のリスク資産に対する強気スタンスを継続する方針です。よって、ポートフォリオにおける株式の組入比率を引き続き高位に維持する方針です。

(2) 投資方針

投資信託証券への投資を通じて、主に高配当利回りの世界の公益株に投資し、市場環境に応じて株式の実質組入比率を変更する方針です。いずれかのタイミングで株式リスクおよび為替リスクを引き下げたことを検討します。

<主要投資先ファンド>

米トランプ政権の関税政策に関する協議に進展がみられたことなどから、世界経済に対する不確実性は一定程度後退したものの、地政学リスクが高まっており引き続き注視が必要と考えます。電化の進展やAIの普及に伴うデータセンターの増設などによる電力需要増、建設コストが低いクリーンエネルギーへのシフトなどによる設備投資拡大などが世界の公益業界の成長ドライバーになるとの当社の見方に変更はありません。市場の先行きが不透明ななかでは、公益企業の、1)業績が景気に左右されにくいこと、2)米国の関税引き上げの影響を直接受けにくい非製造業でかつ、関税引き上げで予想される物価上昇に強く、また、米国への製造拠点の移転は電力需要増加要因にもなること、3)株価が相対的に割安な水準となっていることなどの点が、注目されるとみています。米国の規制下の公益事業は、一定の利益を確保したうえで、税金や燃料費、資金調達コストなどの増加を料金に転嫁できる仕組みを有していることから、政策如何による利益への中長期的なマイナスの影響は少ないとみています。こうしたことから米国の規制下事業の比率の高い銘柄は、経済の先行きが不透明ななかではより注目すべきであるとみており、組入れを高位にしています。

「PGSF グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド」および「PGSF グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド」については、引き続き主に高配当利回りの世界の公益株に投資する方針です。「PGSF グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド」における外貨建資産については原則として為替ヘッジを行う方針です。

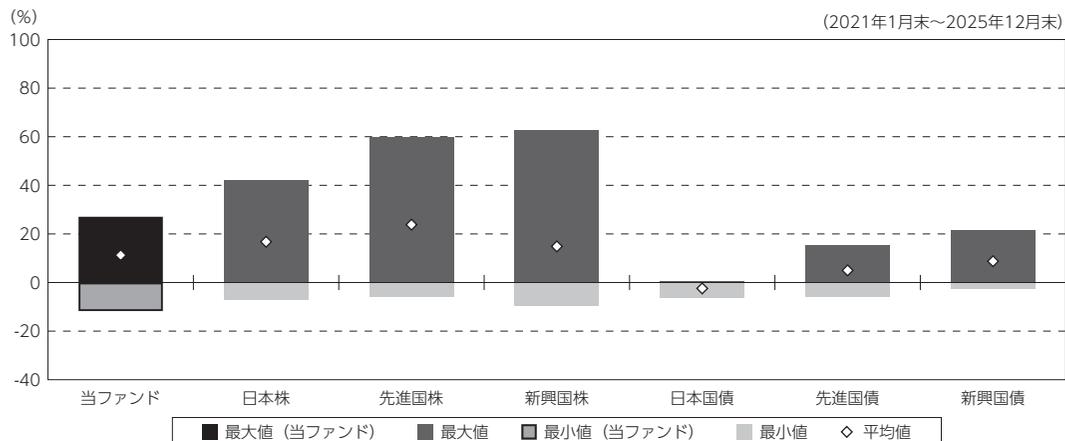
お知らせ

該当事項はございません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2014年7月31日（当初設定日）から無期限です。
運用方針	主に投資信託証券に投資を行い、安定的かつより優れた分配金原資の獲得と信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。
主要投資対象	①ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド受益証券 ②ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド受益証券 ③ピクテ・ショートターム・マネー・マーケットJPY投資証券
運用方法	①投資信託証券への投資を通じて、主に高配当利回りの世界の公益株に投資します。 ②市場環境に応じて株式の実質組入比率を変更します。
主な投資制限	①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託の受益証券以外の有価証券への直接投資は行いません。 ③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	27.1	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値	△ 11.8	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 6.3	△ 6.1	△ 2.7
平均値	11.3	16.8	23.8	14.9	△ 2.4	5.0	8.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2021年1月から2025年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

○各資産クラスの指標

日本株 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 MSCI コクサイ指数 (税引前配当込み、円換算)

新興国株 MSCI エマージング・マーケット指数 (税引前配当込み、円換算)

日本国債 NOMURA - BPI 国債

先進国債 FTSE 世界国債指数 (除く日本、円換算)

新興国債 JP モルガン GBI - EM グローバル・ディバーシファイド (円換算)

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジをしない投資を想定して、ドルベースの各指数を委託者が円換算しております。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

(2026年1月13日現在)

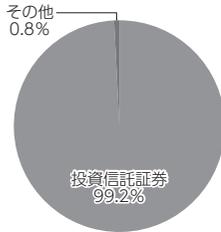
■組入上位ファンド

銘柄名	第137期末
	%
ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド	95.0
ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド	4.2
ピクテ・ショートターム・マネー・マーケットJPY	0.0
組入銘柄数	3銘柄

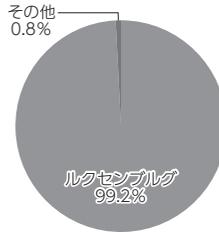
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

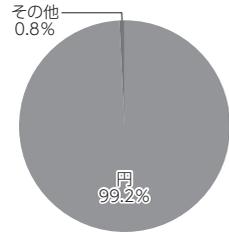
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等(日本・円)を含む場合があります。

純資産等

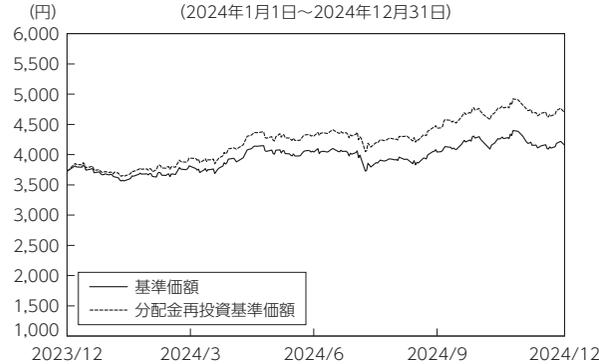
項目	第132期末	第133期末	第134期末	第135期末	第136期末	第137期末
	2025年8月12日	2025年9月10日	2025年10月10日	2025年11月10日	2025年12月10日	2026年1月13日
純資産総額	20,894,109,327円	19,899,454,294円	21,952,089,575円	21,806,277,663円	22,163,153,756円	22,756,073,559円
受益権総口数	20,741,047,664口	20,814,109,975口	20,823,540,239口	20,922,605,647口	21,002,799,636口	21,104,118,549口
1万口当たり基準価額	10,074円	9,561円	10,542円	10,422円	10,552円	10,783円

(注) 当作成期間(第132期~第137期)中における追加設定元本額は1,501,753,359円、同解約元本額は1,284,078,333円です。

組入上位ファンドの概要

ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド

■基準価額の推移



(注) 基準価額の推移は当組入ファンドの直近の計算期間のもので、

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

■1万口当たりの費用明細

当該情報につきましては開示されていないため、記載することができません。なお、損益計算書については運用報告書(全体版)に記載されています。

■組入上位10銘柄

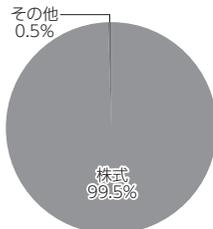
(2024年12月31日現在)

銘柄	比率
1 PG & E	4.9%
2 CENTERPOINT ENERGY	4.6%
3 NEXTERA ENERGY	4.6%
4 SEMPRA ENERGY	4.5%
5 EXELON	4.0%
6 AMEREN CORPORATION	3.7%
7 CONSTELLATION ENERGY CORP	3.4%
8 R.W.E.	3.1%
9 PUBLIC SERVICE ENTERPRISE GROUP	3.0%
10 NISOURCE	3.0%
組入銘柄数	57銘柄

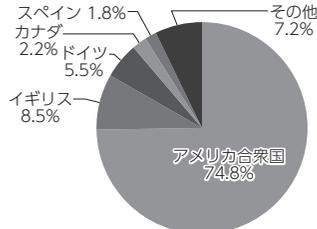
(注) 比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

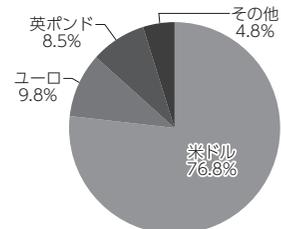
■資産別配分



■国別配分



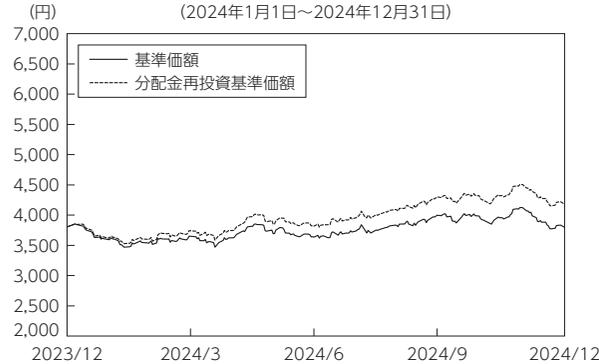
■通貨別配分



(注) 資産別配分の比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分および通貨別配分の比率は当組入ファンドの組入有価証券の評価額合計に対する割合です。

ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド・グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・カレンシー・ヘッジド・ファンド

■基準価額の推移



(注) 基準価額の推移は当組入ファンドの直近の計算期間のもので、
 (注) 分配金再投資基準価額は、分配金を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

■1万口当たりの費用明細

当該情報につきましては開示されていないため、記載することができません。なお、損益計算書については運用報告書(全体版)に記載されています。

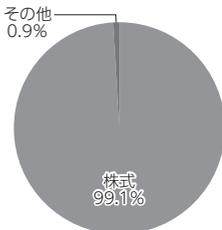
■組入上位10銘柄

(2024年12月31日現在)

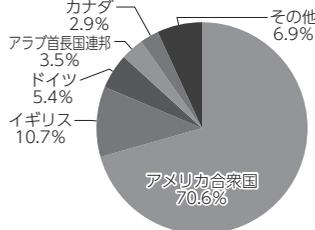
順位	銘柄	比率
1	PG & E	4.9%
2	SEMPRA ENERGY	4.3%
3	CENTERPOINT ENERGY	4.2%
4	NEXTERA ENERGY	4.2%
5	CONSTELLATION ENERGY CORP	4.0%
6	VISTRA	3.7%
7	AMEREN CORPORATION	3.6%
8	EXELON	3.4%
9	R.W.E.	3.0%
10	DTE ENERGY	2.7%
組入銘柄数		56銘柄

(注) 比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

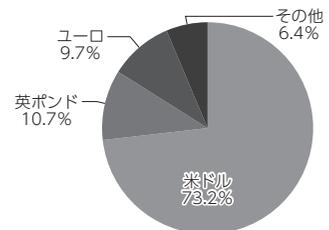
■資産別配分



■国・地域別配分



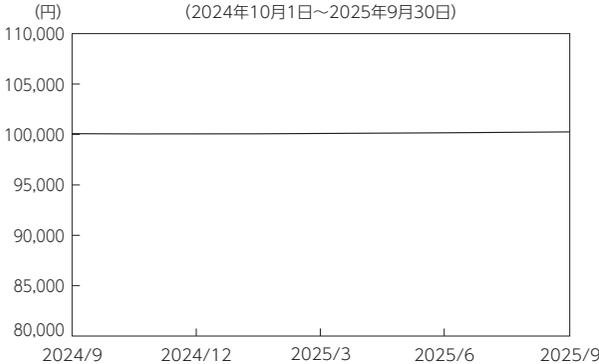
■通貨別配分



(注) 資産別配分の比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合、国・地域別配分および通貨別配分の比率は当組入ファンドの組入有価証券の評価額合計に対する割合です。

ピクテ・ショートターム・マネー・マーケット JPY

■基準価額の推移



(注) 基準価額の推移は当組入ファンドの直近の計算期間のものです。

■組入上位10銘柄

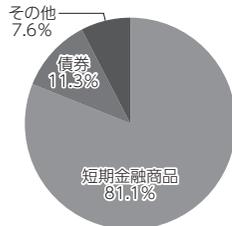
(2025年9月30日現在)

順位	銘柄	比率 (%)
1	C.PAP. TELSTRA GROUP 24/10/25 -SR-	1.8
2	TBI JAPAN 20/10/25 -SR-	1.7
3	TBI JAPAN 01/12/25 -SR-	1.7
4	TBI JAPAN 22/12/25 -SR-	1.7
5	2.812% DBS BANK 22/25 -SR-	1.6
6	0.907% BERKSHIRE HATHAWAY 23/26 -SR-	1.3
7	CD NATIONAL BANK OF KUWAIT NY 03/12/25 -SR-	1.3
8	C.PAP. FIRST ABU DHABI BANK 15/12/25 -SR-	1.3
9	TBI JAPAN 10/11/25 -SR-	1.2
10	TBI JAPAN 10/11/25 -SR-	1.2
組入銘柄数		91銘柄

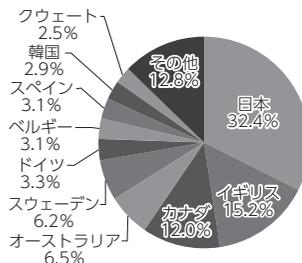
(注) 比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

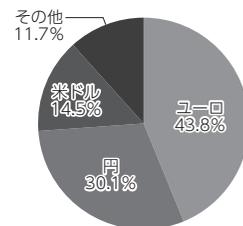
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注) 資産別配分の比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分および通貨別配分の比率は当組入ファンドの組入有価証券の評価額合計に対する割合です。

指数に関して

○ 「代表的な資産クラスと騰落率の比較」に用いた指数について

■ 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) :

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」といいます。) に帰属します。JPXは、同指数の指数値およびそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。JPXは同指数の算出もしくは公表方法の変更、同指数の算出もしくは公表の停止または同指数の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

■ MSCI コクサイ指数 (税引前配当込み) :

MSCI コクサイ指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■ MSCI エマージング・マーケット指数 (税引前配当込み) :

MSCI エマージング・マーケット指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■ NOMURA – BPI 国債 :

NOMURA – BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また同社は同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、当ファンドの運用成果に関して一切責任を負いません。

■ FTSE 世界国債指数 (除く日本) :

FTSE 世界国債指数 (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券指数です。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

■ JP モルガン GBI – EM グローバル・ディバースィファイド :

JP モルガン GBI – EM グローバル・ディバースィファイドは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的な指数です。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。